

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 6 月 15 日現在
(専技情報より抜粋)

◇早期水稲◇

生育は順調で有効茎は確保され、中干し時期となっています。病害虫の発生は少なく、4月下旬植えであれば穂肥施用時期は6月25～30日頃で、出穂期は平年比3～4日早い7月中旬の見込みです。少雨の影響で水不足のおそれがある場合は中干しを短くし、田面が白乾しないように留意しましょう。穂肥は幼穂長2～5mm、葉色3.0～3.5を目安に施用しましょう。

◇普通期水稲◇

5月中旬～6月上旬植えは、田植え後高温で経過したため活着がよく、生育は順調です。平坦地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が田植えの最盛期となる見込みです。少雨の影響で水不足のおそれがある場合は苗の老化防止、生育ステージに応じた配水を行いましょ。5月植えで雑草が多い場合には中後期除草対策を実施しましょう。田植え後は浅水管理を徹底し、活着促進と初期生育の確保を図りましょ。

◇麦類◇

大麦・はだか麦に引き続き、小麦の収穫が終了しました。収量は平年並～やや少ない見込みです。品質は少雨の中で適期収穫が進んだことにより良好の見込みです。

◇施設キュウリ◇

促成および半促成作型とともに出荷終盤であり、7月上旬には終了見込みです。5月に着果、収穫量が多かったため現在の草勢はやや弱まっています。うどんこ病が多発傾向で、アザミウマ類も増加しています。収穫終了後はハウスを閉め込み、黄化えそ病や退緑黄化病を媒介するミナミキイロアザミウマやタバココナジラミ類を死滅させましょ。

◇ナシ◇

暖冬や開花前の多雨により発芽不良や花腐れ症状が一部で発生したものの、開花期以降の好天により、結実、肥大は概ね良好です。5月中旬以降、黒星病が増加傾向です。加温ハウス「幸水」の出荷は6月下旬からの見込みです。黒星病対策を徹底し、誘引・摘心等の新梢管理を徹底し、果実品質向上及び次年度の花芽確保に努めましょ。

◇トルコギキョウ◇

春出し栽培の出荷は終了しています。ブラッシング等の障害は少なく順調に出荷されましたが、系統共販出荷量は減少しています。6～8月出しの生育は順調で、6月下旬から出荷量が増加する見込みです。秋出し栽培に向けて、種子冷蔵が終了し冷房育苗を開始しています。適宜換気を行い、過剰なかん水を控え、茎葉の軟弱化を防ぎましょう。古い花や葉先枯れした葉には灰色かび病が発生しやすいので、対策を徹底しましょう。また、アザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇茶◇

一番茶の出荷は5月末で終了し、品質は良好です。出荷量は前年、平年比でやや少なく、単価は前年比でやや高いです。二番茶の摘採は6月6日開始で、ピークは平坦地で6月15～18日、山間地では6月下旬の見込みです。二番茶は適期の摘採に努めましょう。ハダニ類、アザミウマ類、もち病の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

5月の枝肉単価は連休以降の需要縮小により下がり、3月並の水準です。和牛は過去5年平均を上回る単価を維持していますが、交雑種主体の省令価格は過去5年平均並の単価となっています。暑熱期かつ梅雨入りのため、送風や消毒等により疾病予防や健康管理を徹底しましょう。